

日本帝国主義は、自らの延命を必死に、最も反動的路線を遂行す
 るのみ、さびたも平然と存続方面を推求するのみ、二者其一を迫らざら
 ぬのであり、さてこの途程は、反動市民勢力の側が充分把握して
 いない現在、海軍と陸軍との日本帝国主義者以前者の路線として、
 のである。この路線は、現実には、東南アジアを自らの支配下に置く之れと
 して、休戦の約束を得ず、具体的には、反動階級と右端の恒常的確保を自ら
 の生命線とするが故に、この路線に對する政治、経済、軍事方面にわたる支
 配権の確立も必死のものとしてゐる。

又なる日本帝国主義の反動路線を踏まへて、その路線に及ぶる期待が加
 へらるるものであるが、現時に理解されるべきである。また、沖繩から太平洋の
 壁石、として存在しており、日本帝国主義にとっては、東南アジア侵略へ
 の突破口であり、前進基地であるとともに、核への接近、軍力整備のキ
 ポイントとして存在しているが故に、沖繩をめぐる情勢は決定的に重要な
 である。日本共産党の欺瞞性は、既述の日本帝国主義の動向に沖繩の重要
 性をこのように把握する時、まさに日本帝国主義の沖繩にかけける野望に返還
 を通じての侵略への前進基地の確保、核への接近、反共戦線の強化へ道を開
 いたことにも存在するものである。核抜き、本土共産で粉砕し、軍事上核抜き
 自由使用を認めたい共同声明、その随所に「自らの意識的、種別情勢を遂進
 なる意圖（又は挑発）は、明らか」その犯罪性の極端であり、正当化以外の
 何物でもないのである。そして同時に、77年施政権返還と共に自衛隊の沖繩
 派遣を行ない、自衛隊の核武装を実現せんとしてゐるのである。既に、新
 任在任の上自衛隊一旅団（2千人）と施設部隊の海上自衛隊一地方隊（
 艦船4隻）とで若くは、我が国自衛隊の444マントム一個に自衛隊の派
 遣を具体化してゐるに、共同声明発表当日の朝日、紙上に載つてゐる。
 以上の諸説を踏まへて、沖繩にかけける日本帝国主義の野望は明らか
 である、77年施政権を踏まへて、日本共産党の野望は、まさに77年を目標と
 して、東南アジア侵略体制への道を開くためのものであり、このことが明確と
 なるであらう。

③70年代の斗争勝利に向け、安保条約破棄・
 沖繩基地撤去即時全面返還の斗争を
 更に押し進めよう

かかる情勢の中で、我々の斗争の突破口は、安保条約、沖繩基地撤
 去即時全面返還を中心としたものであることには違ひない。
 確かに、我々の斗争は、今迄、日本帝国主義者をして最も反動的な政策
 としてを許してゐるという決定的な支持を持ってゐる。しかし、自
 りは、この反動的な帝国主義者をして、10、21から10、31、11、11、
 13、17へと打ち続けた労働者階級を中心とする斗争の前、自らの反動性を
 暴露すべく、マスコミを総動員して何ら根拠のない、核抜き、本土共産を
 宣伝したければならぬこと、つまり、結局、結局、結局、結局、結局、結局、
 更に、その欺瞞が暴かれた現在、ますます多くの人民が斗争の前列に加わ

つてきていることであり、帝国主義なやり、反動階級に押し込まれてい
 ることである。そのことは、現地沖繩に於いて、斗争の中心となつてきた
 ・復帰協、が「真の復帰まで斗争」ことを確認してゐることによつて明
 かである。反動的体制内化策動により、復帰協を先鋒とする一時的斗争
 への脱落は不可避としても、にもかかわらず、何より、その広大な反動階級
 が住民生活に決定的な比重を占めてゐる以上、斗争の進行
 して着るべきところ、ますます斗争の隊列を強固にするであらう。それは、
 13、17の斗争の突破口が、単なる復帰ではなく、「反共復帰」
 として確認されてゐることによつて明確に裏付けられるであらう。闘
 争に沖繩の斗争は、今後、反基地、反体制のそれとして展開するであ
 らう。

かかる沖繩の斗争の前進、労働者階級を中心とした反動階級を
 する口内の反動市民勢力の斗争が結合せ、あるならば、我々は望むこと
 年代斗争の展開をうかがひ得るであらう。また、我々は、斗争の前進に向
 我々の持つ全てを投入しなければならぬ。
 10、21斗争から11、17にかけて斗争が再開され、我々は、
 に向け、隊列の圧倒的多数を打ちつこうと、闘争を再開する。

- ① 安保条約破棄
- ② 沖繩基地撤去即時全面返還
- ③ 沖繩への自衛隊派遣一徹自衛隊撤去
- ④ 策動粉砕
- ⑤ 佐藤内閣打倒
- ⑥ 大学の帝国主義的再編策動粉砕
- ⑦ 民主的改進黨斗争勝利

民主主義学生同盟
 大阪市立大学支部

11月20日